

メディアッティがWIZARD™ 使い事業基盤 MSO ビジネスの効率展開を実現

通信事業者向けの課金・カスタマーケア事業を40カ国以上で展開するコンバージェス社。日本市場では、CATV業界でMSO(統括運営会社)事業を展開するメディアッティ・コミュニケーションズがファーストユーザーとなった。課金・請求にとどまらない広範な業務における生産性の向上を、コンバージェス社の「WIZARD」によって実現している。

複数のCATV局を傘下に収め、グループ一体で効率的なサービス運営を展開するMSOのメディアッティ・コミュニケーションズ(本社・東京都港区、森本浩代表取締役社長)。同社は現在、シティーケーブルネット(CCN)、シティテレコムかながわ(CTK)、狭山ケーブルテレビ(S-CAT)、横浜テレビ局(YTV)の4局に出資しており、この中でCCNとCTKが、「メディアッティ」ブランドでCATVおよびケーブルインターネットサービスを提供している。

MSOビジネスのポイントは、CATV各局が加入者増を実現するための付加価値サービスの充実だけでなく、加入者管理や課金・請求といった業務の集約によってコスト低減を図る

こともあげられる。そこで、メディアッティは2001年10月31日、コンバージェスの課金請求処理・加入者管理システム「WIZARD」の導入を決めた。

WIZARDは、コンバージェスが「End to End Products」として提供するフルシステムで、各種サービスの加入者管理、課金・請求にとどまらず、カスタマーサービス、マーケティング、セールス、オーダー/作業指示管理、プロビジョニング等々、広範な業務に適用できる点が大きな特徴だ。

メディアッティでは、すでにCCNとCTKのシステムをWIZARDに統合し運用を開始している。同社執行役員兼COOのブレイク・ウィリアムス氏は、「WIZARDの導入によって、サー

ビス運営にかかるさまざまな業務での生産性向上が実現されました。今後は、高付加価値サービスをタイムリーに提供していくうえでの意志決定にも重要な役割を果たしていくこ



コンバージェス・ブロードバンド・ジャパン

- PART 1 会社紹介
課金システムで世界をリードするコンバージェスの概要
- PART 2 製品紹介
コンバージェスが提供する「次世代フレームワーク」の魅力
- PART 3 ユーザー事例
実例が示すコンバージェス製品の導入効果



メディアッティ・コミュニケーションズ
執行役員兼COOの
ブレイク・ウィリアムス氏

とでしよう」と大きな期待をかける。

実は、同氏は現職に就く以前、世界各地でCATV事業のシステム構築に携わり、WIZARDの導入を手がけたこともある。その実体験を踏まえ、「事業者の要求を満たすという点で、WIZARDに優るものはありません」と、万全の信頼を置いているのだ。

加えて、顧客データベースのマイグレーション、管理画面の日本語化、さらにシステム運用における教育など、システム構築・運用に関するコンバージェス側のサポートも高く評価している。「いくら優れたシステムでも、局側のスタッフが使いこなせなければ意味がありません。コンバージェスが全面的にバックアップしてくれたおかげで、新システムへの移行もスムーズに行えました」とウィリアムス氏はいう。

メディアッティの今後の事業拡大において、WIZARDの多彩な機能とコンバージェスの協力体制が大きく貢献していくことは間違いのないだろう。

Convergys, WIZARD, およびコンバージェス社ロゴは、コンバージェス・コーポレーションの商標です。